



コレステロールと治療について

コレステロールは人間の身体を形成している細胞膜の構成成分としての役割があり、とても重要なものです。

●「善玉と悪玉」

悪玉と呼ばれる「LDLコレステロール」には、肝臓で作ったコレステロールを体内の細胞へ運ぶ役割があります。また、善玉と呼ばれる「HDLコレステロール」には、色々な臓器で使い切れず余ったコレステロールを肝臓へもどす役割があります。ところが、LDLコレステロールが



コレステロール

DLDLコレステロールが増えすぎると、血管の壁に必要以上にコレステロールがたまってしまい、血管の動脈硬化を進行させてしまうことになりま。これがLDLDLコレステロールが「悪玉」と呼ばれるゆえんです。

●日本人の死因の第1位は、がんです

しかし、第2位には心疾患、第4位は脳血管疾患で、動脈硬化が原因で起こる血管の病気で亡くなっている日本人の死因の上位を占めています。また、日本人成人の3人に1人は、脂質異常症であるというデータもありま。これには食事の欧米化や交通機関の発達などによる運動不足などのライフスタイルの変化が大きく影響しています。また、遺伝的にLDLDLコレステロールが増えていく疾患もあります。

●家族性高コレステロール血症(FH)

FHは、遺伝子の異常によって、LDLDLコレステロール値が高くなり、若年より動脈硬化が起こりやすい病気です。遺伝子は2つで1対になっています。

FHには、2つの遺伝子に変異がある「ホモ接合体(ホモ型)」と片方の遺伝子だけに変異のある「ヘテロ接合体(ヘテロ型)」があります。ホモ接合体は重症で、幼少期からLDLDLコレステロール値が非常に高くなりま。家族性高コレステロール血症は、特に心筋梗塞や狭心症を起こすリスクが高いため、LDLDLコレステロール値を低く抑えることが必須です。

●治療

食事療法や運動療法などの生活習慣の改善を3〜6ヶ月行つたにもかかわらず、脂質管理目標値を達成できない場合は、一人一人の持つ危険因子の程度に応じて薬物療法を考慮します。

方は、ご家族も診察を受けることが勧められます。

LDLDLコレステロールの管理目標値は、「一次予防：100mg/dl未満二次予防：70mg/dl未満」と低く設定されています。家族性高コレステロール血症と診断された

LDLDLコレステロール低下作用の最も強力な薬剤はスタチンです。心血管イベントを起こすリスクが高いか、家族性高コレステロール血症の患者様には、「PCSK9阻害剤」で肝臓へのLDLDLの取り込みを増やし、血液中のコレステロールを減らす注射薬もあります

が、使用はスタチンと併用になります。

また、薬剤で効かない重症の高LDLDLコレステロール血症の治療には「アフェレス」と言い、血液を体外へ取り出し、LDLDLコレステロールを除去し、浄化し血液を体内に戻すというものもあります。

定期的にコレステロール値を確認する事が大切だと思います。(看護師 岡田 房子)

